

ISO/TC138（流体輸送用プラスチック管、継手及びバルブ類）年次国際会議

1. はじめに

ISO/TC138は、流体輸送用プラスチック管、継手及びバルブ類に関する規格の制定・改正を担当している。2022年1月24日時点で、合計343の規格が発行され、47の規格開発プロジェクトが進行中である。TC138は、日本が幹事国として、イニシアチブをとって活動中であり、正式メンバー（Pメンバー）は41カ国、オブザーバーメンバー（Oメンバー）は33カ国と、規模的にはISOの中でも比較的大きなTCである。

2. TC138の活動状況

TC138傘下には合計8のSCがあり、TC及び各SCの傘下には、おのおのWGなど、合計29の作業グループがある。SC1～SC7は、管の用途、試験方法、材料、周辺器具などに区分され、SC8は、2013年に設立された、配管系の更生を扱うSCであり、日本が幹事国となって活動中である。第1表にその構成を示す。

TC138では、各SC、WGが、それぞれの専門分野で規格を開発しており、2021年以降、合計26件の新規規格が発行された。また、2021年のTC138における国際投票は、規格見直し投票とコミティー内投票を除いた、規格開発のための投票数が62件であった。

第1表 ISO/TC138の構成（2022年1月24日現在）

セクション(幹事国)	名称
TC138（日本）	流体輸送用プラスチック管、継手及びバルブ類
SC1（フランス）	下水、排水、雨水用プラスチック管・継手（農業用を含む）
SC2（スイス）	給水用プラスチック管・継手
SC3（イタリア）	工業用プラスチック管・継手
SC4（オランダ）	ガス燃料供給用プラスチック管・継手
SC5（オランダ）	プラスチック管・継手及びバルブと付属品の一般特性 一試験方法と基本仕様一
SC6（オーストリア）	強化プラスチック管・継手
SC7（イタリア）	プラスチックバルブと付属品
SC8（日本）	配管系の更生

3. 2021年のTC138年次国際会議

TC138の年次国際会議は、2021年10月に、アラブ首長国連邦のアブダビで開催予定であったが、COVID-19の影響で、2020年同様、対面開催が中止され、8月～11

月にかけて、SC1～SC8までの全てのSC会議、各SC傘下の18のWG会議がWebで開催された（複数回開催も含む）。2021年のTC138及び関連SC、WG会議への日本からの出席者は19名で、Web会議のため、出張なしでの参加が可能なおもあり、例年より多く、2020年と同数の参加者となった。各SC及びWGの会議では、おのおの分野のエキスパートが、時差を超えて早朝から深夜にわたって世界中から参加し、主として規格開発に関する討議と決議承認を実施した。TC138全体会議は、10月28日にWebで開催され、幹事国である日本が全体を取りまとめ、29カ国から合計68名が参加して討議を実施した。TC138全体会議では、TC138全体に係る事項の報告、各SC会議での討議内容及びSC決議事項の報告、TC138としての各種取進め事項につき討議された。今年のTC138全体会議においての決議事項はなかったが、会議に先立って、2021年にはTCでのコミティー内投票により、合計4件の決議事項が承認されている。

4. トピックス

(1) 日本提案の規格

日本提案の規格としては、TC138/SC3/WG8の「ガラス短繊維強化ポリエチレン管システム 第1、2、3、5部」と、TC138/SC8/WG2の「非加圧地下排水及び下水網の修復用プラスチック配管システム 第9部：堅く固定されたプラスチック内層を有するライニング」の、合計5件があり、それぞれのWG会議で内容詳細が討議され、次段階に向けての開発が進捗した。

(2) TC138及び関連SCの議長

2021年より、TC138の新任議長として栗田享氏が就任した。また、2021年末で、SC3、SC4、SC5、SC8の議長が任期終了となり、SC4はMr. Marco Mekesが、SC8は久保内昌敏博士が2022年からの新任議長に任命された。SC3およびSC5の議長の任期はさらに3年の再任が決定した。

5. 今後の開催予定

2022年のTC138年次国際会議は、10月23日～27日に、2020、2021年に開催できなかったアラブ首長国連邦のアブダビで開催される予定である。2023年は、候補国としてフランスが会議開催の意向を示している。